

科目名	がん看護学実習Ⅱ(がん看護実践実習) Oncology Nursing PracticeⅡ
授業形態	実習
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時限等	春AB学期 応談
実施場所	実習施設(筑波大学附属病院、国立がん研究センター東病院等)
単位数	4単位
担当教員名	山下美智代 Yamashita Michiyo 水野道代 Mizuno Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に予定を確認の上で訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	複雑で対応困難な問題を持つがん患者やその家族に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いた質の高い看護援助法の開発ができるような能力を習得する。また、実践の場での倫理的判断能力を養う。さらに、地域の保健・医療・福祉サービス機関に従事する様々な職種の役割・機能を理解した上で、地域で暮らすがん患者と家族の療養生活を支援するための援助方法について学び、援助計画を立案、実施、評価できる。
他の授業科目との関連	
履修条件	専門看護師養成プログラム(がん看護)の受講者であること。
授業概要	専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、がん患者を援助する実習を行う。
キーワード	複雑で対応困難な問題、包括的アセスメント、高度看護実践、科学的評価
授業計画	1 先進的ながん医療を実施し、がん患者を相当数受け入れている施設にて実習を行う。 2 複雑で対応困難な問題を持つがん患者を受け持ち、包括的なアセスメントに基づいた援助計画を立案する。 3 実習日毎に、援助計画の実施・進行状況を記録し、その内容を分析した後、がん看護専門看護師が果たすべき機能の側面から考察をおこなう。 4 常に援助計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向け実習計画の修正を行う。 5 がん看護学実習Ⅱの実践内容については、実習要項の書式に従い、その成果を報告する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習期間にとらわれることなく、実習施設等のがん看護に関連する医療活動に関わる機会を積極的にもちこつことも必要である。がん看護や緩和ケアに関する研修会や講習会に積極的に参加することも望まれる。
成績評価方法	実習計画書の作成、実習計画書にもとづいた実習、最終レポートの提出とする。  評価方法と評価配分 実習目標の達成度70%、カンファレンス10%、最終レポート20% 評価基準 1 複雑で対応困難な問題を持つがん患者と家族を包括的にアセスメントすることができる。 2 アセスメント、エビデンスや概念・理論に基づき、問題を解決するための具体的な援助計画を立案することができる。 3 立案した援助計画を実施し、専門看護師の役割・機能に照らし合わせながら科学的に評価することができる。 4 倫理的問題がある場合、問題点を的確に抽出し、対処方法を述べることができる。 5 科学的な評価や医療チームの意見をもとに、看護実践指針を改善することができる。 6 質の高い高度な看護実践へ向けた自己の課題を明確にする。 7 地域医療連携にかかわる部署における各職種の役割・機能について理解し、がん患者が医療施設から地域へ円滑に移行するために必要な支援内容について理解することができる。 8 地域で暮らすがん患者と家族の療養生活の実際を理解し、地域連携のあり方について考えることができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～8を自身で達成、評価し、新たな自己の課題を明確にできる A 上記1～8を自身で達成し、自己および他者評価も踏まえた上で、達成度を評価できる B 上記1～8をほぼ自身で達成できる C 上記1～8を教員の指導を受けながら概ね達成できる D 上記1～8について教員の指導のもとでも達成できない
教材・参考文献・配布資料等	これまでの学習において使用した著書や文献を各自で効果的に活用すること。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	関連著書や論文を十分に活用し、積極的・主体的に実習に臨むこと。